



奈良県感染症発生動向調査還元情報 (週報)

奈良県感染症情報センター

(奈良県保健研究センター内) [Nara IDSC](#)

今週の概要

- 第 19 週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（4 月）

⊕ 第 19 週の感染症情報(5 月 6 日(月)～5 月 12 日(日))

奈良県および二次医療圏別発生状況 (奈良県上位 5 疾患)(5 週前からの動向)

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.43	→	→～↑	→	→
2	インフルエンザ	1.38	→～↓	→	→～↓	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.26	↑	↑	↑	→～↑
3	水痘	1.26	↑	↑	↑	↑
5	咽頭結膜熱	0.46	→	→	→	↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 216 例で、前週報告の 138 例から増加。上位 5 位疾患は、①感染性胃腸炎、②A 群溶連菌咽頭炎、③インフルエンザ、④水痘、⑤突発性発しんの順。感染性胃腸炎の報告数（108 例）は、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（29 例）は、再度増加。水痘の報告数（23 例）は、やや増加。突発性発しんの報告数（1→6 例）も、やや増加。インフルエンザの報告数（37 例）は、やや減少。未だにインフルエンザ定点からの報告が、奈良市 HC 管内；14 例、郡山 HC 管内；23 例の計 37 例で、定点当たりの報告数は 1.37 で前週よりはやや減少。郡山 HC 管内眼科定点から流行性角結膜炎が 4 例報告されたが、奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点からの報告は共になかった。

(村井 記)

県中部地区概況 報告数は 175 例で、前週報告の 137 例から増加。上位 5 疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③水痘、④A 群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱の順。感染性胃腸炎の報告数（88 例）は、増加。水痘の報告数（16 例）も、増加。インフルエンザの報告数（34 例）は、やや増加。A 群溶

連菌咽頭炎の報告数（12例）も、やや増加。咽頭結膜熱の報告数（9例）は、やや減少。依然としてインフルエンザ定点からの報告が、桜井 HC 管内；7例、葛城 HC 管内；27例の計 34例で、定点当たりの報告数は 1.55 だった。眼科定点からの報告が、桜井 HC 管内より流行性角結膜炎；2例、葛城 HC 管内より急性出血性結膜炎；2例と各々あった。基幹定点からの報告は、桜井 HC および葛城 HC 両管内共になかった。

（村井 記）

県南部地区概況 報告数（第 18 週→第 19 週）は 30 例→51 例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎（13 例→29 例）、②インフルエンザ（5 例→5 例）、③水痘（6 例→5 例）、④咽頭結膜熱（3 例→3 例）、④A 群溶連菌咽頭炎（0 例→3 例）、⑥突発性発疹（2 例→2 例）、⑥流行性耳下腺炎（0 例→2 例）、⑧手足口病（1 例→1 例）、⑧マイコプラズマ肺炎【基幹定点】（0 例→1 例）であった。

（柳生 記）



【病原体（ウイルス）検出情報（平成 25 年 4 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、4月におけるウイルス検出状況は以下のとおりです。

患者数（平成 25 年 4 月検出分）

検出病原体		北部	中部	南部	臨床診断名
ロタ	A	2	9	20	感染性胃腸炎(27) 乳児嘔吐下痢症(4)
ノロ	GⅡ		2	2	感染性胃腸炎(4)
アデノ	40/41			1	感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	AH3		7	1	インフルエンザ(7) 気管支炎(1)
インフルエンザ	AH1pdm			1	インフルエンザ様疾患(1)
インフルエンザ	B		14		インフルエンザ(14)

感染症情報センターホームページアドレス

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>